

苦悩から生き残りを目指すクラブ ● ケース 4

政治的操作が選手・フロントを奮い立たせた

～フルミネンセ[ブラジル]の場合～



創設100年のブラジルの名門フルミネンセは、ずさんな経営により3部転落という屈辱を味わう。しかし思いがけない政治的決定がクラブを一部に留まらせる。そしてクラブはスポンサーという力を最大限に活かし、次第に地域一の健全経営へと変貌していくのだった。

文 ● 大野美夏
Text by Mika Ohno

スポンサーとの協力体制がチーム財政再建に欠かせない

1902年創設のフルミネンセ・フットボールクラブは、100年以上の歴史を持つブラジルの名門クラブだ。これまでにリオ州選手権29回優勝、71年から始まった全国選手権では84年に優勝を記録している他、数々の大会でタイトルを獲得してきた華々しい経歴を持つ。

過去に活躍した選手には、リヴェリーノ、70年W杯の代表キャプテンのカルロス・アルベルト、94年W杯優勝メンバーのフランコなど、多くのスター選手の名前が並ぶ。さらに、ブラジルの人気チーム、フラメンゴがフルミネンセから分裂してできたクラブだという事実も、フルミネンセの偉大さを証明している。

そのフルミネンセが凋落の一途を辿り始めたのは、90年代後半のことだった。理由はブラジルの他のクラブとそれほど変わりはない。クラブ運営のずさんさが故の財政難

であった。

フルミネンセは、95年の全国選手権を4位という好成績でシーズンを終えたにもかかわらず、翌96年は24チーム中23位の結果に終わり、2部降格が決定。ところが、審判の八百長騒動があつたことが幸いして、フルミネンセとブラガンチーノの2クラブの降格が取り消され、一転、一部残留となったのだ。

政治的操作があつたとも言われたが、お陰で名門の面子はなんとか守られると、翌97年、フルミネンセは名誉挽回をかけてシーズンに望んだ。ところが、そのシーズンも25位(下から2番目)となり、再び2部降格が確定。さすがにそのときはかなりは政治的操作も奏功せず、98年ついに2部リーグを戦った。

そして悪夢は続いた。98年は2部でも成績が振るわず、99年には3部リーグに転落。悪魔のようなそのシーズンなんと3部で優勝し、二年で2部復帰を果たすことは出来たのだが……。

しかし、事態はまたもや急展開

を見せる。政治的策略で、新しい大会が開催されたのだ。ブラジルサッカー界の有力クラブがこぞって全国選手権をポイコット。代わりにジヨアン・アウヴェランジエ杯という大会を創設したことで、25チームで編成された一部リーグにフルミネンセの名前が残ったのである。復帰理由は到底納得できるようなものではなく、それだけに、フルミネンセとしてはピッチで自分たちの実力を証明して見せるしかなかった。

そこから流れは変わった。その2000年の成績は9位。その後01年全国選手権3位、02年4位、04年9位、05年5位と、コンスタントに10位以内の成績を収めたのである。あのロマリオも02年から04年まで所属。以降も、2005年にはコッパ・ドゥナシル準優勝。州選手権においては02年、05年と、2年連続で優勝している。

こうして成績が安定するようになると、フルミネンセは、それまで陥

っていた財政難からも脱出することになった。凋落するリオサッカー界の中で、唯一の優良クラブへと生まれ変わったのだ。

その財政再建の鍵を握っていたのが、健康保険会社のウニメチだった。たとえば、2004年のフルミネンセには、ロマリオ、エジムンド、ラモン、ロージェルら豪華アタッカー陣が揃っていたが、そのサラリーを肩代わりしていたのがウニメチだったのである。

そのウニメチは、今年年間3500万円のスポンサー料を支払って、フルミネンセをバックアップ。主力選手の給料も肩代わりする。契約は現段階で2008年までとされ、フルミネンセとウニメチの関係は、極めて良好だ。

さらにフルミネンセでは、国内クラブとして唯一、全選手の健康保険が肩代わりされている(ブラジルでは公的保険はあてにならない。民間保険が一般的)。これに加え、アデアスからのスポンサー料が約1億

円とも言われており、健全な運営体制で建て直しがされている最中にあるのだ。

現在、98年から6年間会長を務めたダヴィウ・フィシェウに代わって、2004年12月から就任したロベルト・オルカーデス会長は「これまでの6年間フィシェウが組織の建て直しに尽力し、種を植えて芽を育ててきてくれた。無計画な選手獲得などをやめ、組織、施設への投資を進めてくれた。だからこれからは、花や実をならす時代だ」と、クラブの未来を語っている。

これは一例だが、以前は土のグラウンドだったシェレン地区の下部組織トレーニングセンターも、今では7つの芝のピッチとトレーニングセンターを完備するまでに改善され、スタッフも充実した。100人以上を収容できる宿舎も併設され、日夜若手の育成も行われている。これだけのレベルのトレーニングセンターを持つクラブは、ブラジルでもサンパウロFC、クルゼイロ、ヴィトリア、バイ



危機的状態から救った名門フルミネンセのクラブ施設。

今年には既に監督の入れ替えを3回も行っているが、全く心配はないようだ。今も長期計画によるチーム作りは行われており、クラブは全国選手権優勝とリベルタドーレスカップ出場を目標に、突き進んでいるのである。